

川崎医科大学附属病院 がんセンターNEWS

Vol.9 2011 秋号 



吉備路の五重塔：撮影 園尾 博司

- 肝・胆・膵内科のご紹介
- 岡山県緩和ケア研修会レポート
- 川崎医科大学附属病院がんサロンレポート
- 「胃癌にも分子標的治療薬の時代が到来しました」

インフォメーション

- 第10回 Cancer Seminar
- 第10回 市民公開講座
- 第6回 Oncology Seminar
- オープンカンファレンス



肝・胆・膵内科のご紹介

肝・胆・膵内科部長 日野 啓輔

現在、肝胆膵内科は14名の医師（大学院生2名を含む）と5名の事務補佐員により業務を行っています。

文字通り肝胆膵領域疾患の診断・治療・研究を行っています。とりわけ肝がん、膵・胆道がんが占める割合は大きくなっています。



肝がんでは肝細胞がんが大半を占めますが、ラジオ波焼灼療法などの局所療法、動脈塞栓療法、分子標的治療薬投与に加え、消化器外科のご協力のもと肝切除による治療を中心に行っています。また、膵・胆道領域では内視鏡的治療や化学療法を中心に進行癌の予後改善を目指すとともに、早期膵・胆道癌診断のための検査法の開発を目指しています。

研究面では酸化ストレスを中心とした肝発癌機構や膵線維化の分子機構に関する研究を行っています。

岡山県緩和ケア研修会を開催しました

緩和ケア研修会 ファシリテーター 出口 美穂

当院では、8月27日・28日に岡山県緩和ケア研修会（医師対象）を開催いたしました。今年の参加者は26名で積極的に臨んでおられ、大変充実した研修会になりました。

今年で3年目を迎えましたが、ファシリテーターはすべてチームカワサキで揃え、研修会を運営させていただきました。

研修としては例年通り、初日午後から、緩和ケア概論の講義に始まり、がん性疼痛の評価と治療、事例検討などのグループワーク、事例をもとにしたロールプレイを行いました。2日目は朝から、消化器症状、呼吸困難、精神症状の講義、コミュニケーションロールプレイ、地域連携に関するグループワークを行いました。特に、ロールプレイでは経験のない方もスムーズにこなされ、大変真摯な態度が印象に残りました。成果としても実際の診療場面に生かせるという手ごたえのある方もおられました。

緩和ケア研修会は、毎年、地域の病院、施設から多数のご参加をいただいております。研修以外に施設間の交流や情報を知る機会の場になっていることも事実です。顔の見える施設間の連携が今後も継続できればと考えております。

研修会を受講したい方、緩和ケアに関心のある方は、ぜひお問い合わせの上、ご参加ください。お待ちしております。



第2回川崎医科大学附属病院がんサロンを開催しました

園尾 博司・平井 敏弘・中田 昌男

9月17日(土曜日)午後1時半より、川崎医科大学校舎棟8階ラウンジにおいてがんサロンが開催されました。

主催は川崎医科大学附属病院がんセンターで、地域がん診療拠点病院活動の第9回市民公開講座の一環として行われました。講演は3題で、「がんに対する国と病院の取り組み」(川崎医科大学附属病院呼吸器外科部長 中田昌男)、「治療の副作用は我慢しない!!—私達がサポートします」(川崎医科大学附属病院通院治療センター看護主任 笹本奈美)、「つらい気持も我慢しない」(川崎医科大学附属病院診療科部長 山田了士)でした。参加者は135名で用意された席はほぼ満席の状態でした。朝の雨が上がり、さわやかな天気にも恵まれました。講演の後は、邦楽部の学生による琴の演奏、茶道部学生による抹茶とお菓子のサービス、アロマテラピーコーナー、ハーブティーコーナーで患者、その家族、医療者がゆったりとした空間で語り合い時があつという間に過ぎました。がんとの闘病生活は患者だけでなく、家族にとっても時に孤独な闘いです。参加者からは、一人ではないことを実感していただき、多くの感謝の声を頂きました。今後もこのような活動を続けていきたいと思っています。



胃癌にも分子標的治療薬の時代が到来しました

消化器外科部長 平井 敏弘

フッ化ピリミジン系抗がん剤とシスプラチンの併用患者にハーセプチンを加えた結果、全生存期間が有意に延長することがToGA試験により確認された。

ToGA試験は欧州とアジアを中心に24か国で実施され、HER2陽性の進行・再発胃癌患者594人が参加した。このうち日本人は102人。患者はフッ化ピリミジン系薬剤(静注5-FUまたはゼローダ)とシスプラチンを投与した群(以下、化学療法群)と、化学療法群にハーセプチンを加えて投与した群(無作為に割り付けた)。

その結果、主要評価項目の全生存期間(中央値)はハーセプチン併用群が13.8か月、化学療法群が11.1か月で、ハーセプチン併用群で統計的に有意な延長を示した(ハザード比0.74(95%信頼区間0.60-0.91、 $p=0.0046$)。)

また、HER2強陽性の患者の全生存期間(中央値)は、ハーセプチン併用群で16か月、化学療法群が11.8か月だった。

一方、安全性は、これまでにハーセプチンや併用した化学療法で報告されている範囲内のもので、忍容性が認められたという。

この結果から、本年3月「ハーセプチン」(一般名=トラスツズマブ(遺伝子組換え))のHER2陽性進行・再発胃癌の効能追加が承認された。胃癌に対しては初めての分子標的治療薬の適応承認であり、胃癌でも分子標的治療薬の時代が到来したと言える。

がんセンター活動予定

第10回Cancer Seminar (医療関係者向け)

日時：平成24年1月14日(土) 13:30～16:30
場所：川崎医科大学 校舎棟7階 M702教室

テーマ

「頭頸部・甲状腺・泌尿器がんの治療
～放射線治療を中心に～」

第6回Oncology Seminar (看護師・コメディカル向け)

(台風のため平成23年9月3日(土)の開催を延期させていた
だきました。ご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでした。)

日時：平成24年3月24日(土) 13:30～16:00
場所：川崎医科大学 校舎棟7階 M702教室

テーマ

「がん患者QOLの維持・向上を支援する」

講演

- ①「がん患者のトータルペイン」
弘中 寛治 (川崎医科大学附属病院 臨床腫瘍科医長)
- ②「医療福祉相談室の活動の実際」
河村 麗子 (川崎医科大学附属病院 患者支援支援センター
医療ソーシャルワーカー)
- ③「緩和ケアチームの実際～尾道方式～」
渡辺 陽子 先生 (尾道市立市民病院 緩和ケア認定看護師)

第10回市民公開講座

日時：平成24年3月17日(土) 13:30～16:00
場所：川崎医科大学 現代医学教育博物館2階大講堂

テーマ

「がんの免疫療法」

オープンカンファレンスのご案内

下記のカンファレンスを行っています。
参加ご希望の際は地域医療連携室までご連絡をお願いします。

呼吸器カンファレンス

呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科(診断・核医学)・病院病理部合同で「呼吸器X線カンファレンス」を行っています。院外の先生方もどうぞご参加ください。気になる症例がありましたらレントゲンをお持ちいただいても結構です。

日時 第2・4月曜日 18:00～19:00
場所 9階中病棟 第2カンファレンス室

大腸癌化学療法カンファレンス

外科・内科・臨床腫瘍科・放射線科の医師・看護師・薬剤師など多職種からなる医療チームで、外来大腸悪性腫瘍に対する治療方針(化学・放射線療法プロトコール・手術介入など)の決定についてのカンファレンスを行います。院外の先生方や医療スタッフの皆さまもどうぞご参加ください。

日時 第1・3金曜日 17:30～19:00
場所 本館10階 遠院治療センター

緩和ケアカンファレンス

毎週木曜日13:15から14階西カンファレンス室で緩和ケアチームのカンファレンスを行っています。

Case Conference

各診療科から症例を提示し、その診断と治療およびケアについて複数の診療科で、また医師・看護師のみならず広くコメディカルも参加して横断的かつ総合的に討論し勉強する症例検討会です。

日時 第2木曜日 18:00～19:00
場所 川崎医科大学 校舎棟M703号教室

Nutrition Support Team(NST)カンファレンス

毎週火曜日14:00から14階南カンファレンス室でNSTミーティングと勉強会を約1時間行っています。どなたでも参加可能です。



川崎医科大学附属病院

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577
TEL 086-462-1111(代表)
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/>

紹介患者さま受診予約窓口

■地域医療連携室
TEL(086)462-1111(内線22611・22613)
FAX(086)464-1166
E-mail renkei@med.kawasaki-m.ac.jp